

4-1-7-3 思春期心理科

1. 概要と特色

1.1 思春期の精神発達の特徴

思春期は小児から成人への重要な橋渡しの時期であり、心身両面において成長と共に成熟が始まり、完成する時期である。思春期における精神発達は次のようにまとめられる。

- ・自己発達は新たなレベルに達し、個性を持った独自の人となる。また、過去からの連続性と将来への見通しを持つという「同一性(identity)」が獲得される。

- ・親との関係は決して失われるのではなく、より対等な関係になる。子どもは親の欠点を認識するようになり、また、自己決定に関して責任感を持つようになる。親は子どもが自分で自分を制御していくのを見守る役割を取るようになる。

- ・社会活動は学校だけでなく、学校外の活動(課外活動やアルバイト)が増え、複雑な社会生活を送るようになる。同性あるいは異性の友達、同性あるいは同性異性両方を含む集団への参加、あるいは親密なパートナー関係に入っていく。また、これらの全ての活動が、調和して行われる。

従って、思春期診療では、病理的現象に対する治療だけでなく、個としての発達を促進する働きかけが必要である。

1.2 思春期診療の概要

国立成育医療センターこころの診療部には、育児心理科、発達心理科と共に、思春期心理科が設置されている。思春期心理科では、不登校・引きこもりや摂食障害など、思春期に特有な問題や他科との協働による思春期医療に取り組んできた。思春期心理科の診療活動としては、通常の初診(週1日)および再来(週4日)、総合診療部思春期診療科と合同して行う思春期外来(週2日)および入院治療、特殊外来としての不登校外来(週1日)、および専門他科とのコンサルテーション・リエゾン診療(外来・入院)が挙げられる。

2. 診療活動

2.1 2006 年度初診患者数

2006 年度初診患者数は 103 名である。年齢別では、小学生低学年 2%、同高学年 16%、中学生 59%、および高校生以上 23%である。性別では、女子 57%および男子 43%である。診断分類(ICD-10)としては、F4(神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害)分類 61%、F5(生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群)分類 11%、F2/F3/(統合失調症/感情障害)分類 10%、F7/F8(精神遅滞/発達障害)分類 8%、およびその他の分類 10%であった。

2.2 思春期外来

週半日の外来2回で、原則として院内からの紹介による特殊外来である「思春期外来(総合)」は、総合診療部思春期診療科医師が担当している。「思春期外来(心理)」は、こころの診療部思春期心理科医師が担当している。この特殊外来では、身体面と心理面を同時に診療していく体制になっている。「思春期外来(心理)受診者の年齢は、小学生高学年から中学生年齢が中心である。診断分類は、摂食障害群と神経症性障害群が大半を占めている。神経症性障害群の中には、様々な身体化症状やいわゆる自律神経症状を示すものが含まれている。すなわち、思春期外来全体として多いのは、摂食に関する問題(摂食障害とその関連疾患)を持つ者、様々な身体化症状を示す者、および様々な慢性身体疾患を持つ者である。

2.3 若年発症の摂食障害に関する入院チーム医療

当センターでは、総合診療部、こころの診療部、および看護部が協働して、摂食障害の入院チーム医療を行ってきた。当センターの特徴として、神経性無食欲症の最も低い年齢層(小学校高学年から中学生)を対象としていることが挙げられる。2002 年 3 月当センター開設から 2007 年 3 月まで

の間に、摂食障害の診断・疑いにて当院摂食障害の治療チームが担当して入院治療を行った者の中で、初診時年齢が16歳以下の女性患者は48人に達している。2006年度は、平均4.6人/日の入院患者数であった。

2.3 各診療科へのリエゾン医療

各診療科へのリエゾン医療で、直接、担当医として加わった入院患者数は、2006年度において平均3.1人/日であった。

摂食障害の入院治療と同様、当センターでは、複数の診療科が一人の患者に関わることが多い。合同して、チーム医療を実践するためには、多くの時間とエネルギーが必要であるが、それが上手く機能した場合には、大きな成果を上げることができる。特に、思春期年齢においては、疾患に直面することは、本人・家族双方にとって大きな危機となる。そのような危機を乗り越えることは、精神発達を進める機会にもなる。

3. 研修および講演

3.1 東京精神療法研究会

- ・ 2006年11月6日 講義：「ボーダーライン病理の理解」
- ・ 2007年3月5日 講義：「イントロジェクトについて」

3.2 大阪精神療法研究会

- ・ 2006年9月16日 講義：「フロイトの同一化論と内在化過程について」

3.3 国立成育医療センター・イブニングセミナー

- ・ 2006年10月4日 講義：「小児期・思春期早期の摂食障害とその関連疾患について」

3.4 第2回日本精神分析学会教育研修セミナー

- ・ 2006年10月29日 研修：「精神分析的な精神療法の治療作用：面接の逐語録を用いて理論と実際を学ぶ」

3.5 東京学校臨床心理士研究会

- ・ 2007年2月23日 講義：「思春期の抑うつと摂食障害」